



# 博物館友の会だより

題字：千葉半匡

## 文化振興ニュース

### 西福寺文書が重要文化財に答申されました！&講演会等ご報告

令和六年三月十五日（金）、文化審議会は文部科学大臣に対し、「西福寺文書」を重要文化財と指定するよう答申が出されました。

#### 重要文化財指定の流れ

重要文化財指定候補物件は事前に文化庁で調査  
←文部科学大臣は文化審議会に指定すべき物件について諮問。

←文化審議会文化財分科会による審議・議決。

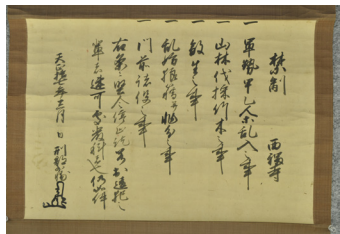
←文化審議会は文部科学大臣に対し重要文化財に指定するよう答申。👉今ココ

←文部科学大臣はこれを受けて指定物件の名称、所有者等を官報に告示するとともに当該重要文化財の所有者には指定書を交付する。

西福寺には既に重文指定されている数々の仏画や建物などの文化財がありますが、今回は改めて西福寺文書群が国の重要文化財になることが決まりました。三月十六日（土）

に北陸新幹線が敦賀延伸と重なる快挙（と関係者は思っています）です。

西福寺の建物修復事業も半ばですが、この事業の後押しにもなる嬉しい出来事です。



大谷吉継禁制（西福寺文書より）

#### 博物館講演会のご報告

令和五年十月二十八日（土）、きらめきみなと館小ホールにおいて、東京大学東洋文化研究所教授・塚本鷹充氏による「内海吉堂と「中国」―画業と生涯から―」と題した講演会がありました。特別展で判明した史実を踏まえながら、後年は中国絵画の鑑定士としても活躍していた吉堂の画業の一端を分かりやすくご紹介いただきました。参加人数は五十四名でした。

令和五年十二月十七日（日）、博物館三階講堂において、福井県立博物館主任学芸員・有馬香織氏による「刀工冬廣をめぐって」と題した講演会がありました。若狭所縁の刀工・冬廣について現時点で判明している史実も交え、その業績やその時代の刀工について、分かりやすくご紹介いただきました。参加人数は三十一名でした。

令和六年一月十三日（土）、きらめきみなと館小ホールにおいて、奈良大学教授・外岡慎一郎氏による「第21回吉継カフェ・大谷吉継と蜂屋頼隆」と題した講演会がありました。吉継の前の敦賀城主・蜂屋頼隆について、史実的な観点から、その生涯や業績を分かりやすくご紹介いただきました。参加人数は一〇四名でした。

## 紫式部は唐人を見に 敦賀へ来たのだろうか

友の会会長 川村 俊彦

紫式部は、越前に下る前、後に夫となる藤原宣孝から「唐人見に行かむ」と誘われた。長徳元年（995）九月、若狭国に到着した宋の商人・朱仁聡一行七十人が敦賀に滞在しており、その物見に託けたデートの誘いである。彼女はつれない返事を残し、長徳二年夏、父・藤原為時の越前国司下向に随行して武生に赴く。翌年、春に氷が解けるように貴女の心も私に打ちとけてという男の求愛に、「春なれど 白嶺のみゆき いやつもり 解くべきほどの いつとなきかな」（春になっても白山の雪はいよいよ積り、その雪のように私の心が解けるのも何時になることかしら）と冷やかに返している（『紫式部集』二二八）。

宣孝にとつて敦賀での逢瀬は叶わなかったようであるが、それはさておき紫式部個人としての敦賀との関りはどうだったのか。

父・為時は、文章生出身の学者で漢詩文に秀でた当代一流の知識人であった。越前国司の補任にあたって、申文（願書）の漢詩に心打たれた藤原道長が一条天皇の勲覧に供

して実現したという逸話があるが、つまりは博多と並ぶ要港であった敦賀津における宋人への応対が期待されたからであろう。

実際に、為時は国司在任中、「覬覬の後詩を以て大宋客の羌世昌に贈る。藤為時」と題する七言律詩を残しており（『本朝麗藻』）、宋人との応酬のあったことが解る。

紫式部自身も、もとより和歌については曾祖父・兼輔（堤中納言）以来の血脈の歌才を引き継ぎながら、漢詩文や史書の素養についても、父親譲りの博識であった。

『源氏物語』第一帖「桐壺」には、若宮の将来を案じた帝が、高麗人の優れた相人（人相見）にみせるため鴻臚館に遣わす場面がある。この観相に基づいて、若宮は「光源氏」と呼ばれ、帝王と臣下との間に位する存在として描かれていくのである。

ここでいう高麗人とは、渤海人を念頭に置いたものであろう。実際に、渤海使節の大使が、我國の貴人を観相し、その将来を予見した実例が、『文徳実録』（嘉祥三年五月壬午条）や『三代実録』（元慶八年光孝天皇即位前記）に記録されている。

また、第六帖「末摘花」には、零落した公

家の姫君が纏う古風な上着として、黒貂の皮衣が出てくる。これも、かつて渤海からの交易品であった黒貂や豹の毛皮が、紫式部の数世代前に上流貴族のファッションとして流行したという事情を踏まえている。

渤海国は九二六年に滅亡したものの、それまで高麗といえば渤海を指すのが通例で（朝鮮の高麗王朝成立は九一八年）、八世紀半ば頃から一〇世紀初頭まで、我が国にとつて彼の国は最も親密な隣国であった。

その渤海の人物の記録や記憶を、史書に通曉したこの作家は創作に生かしたのだ。

渤海と言え、敦賀津には渤海使節一行を迎接した松原客館があったのも彼女なら承知していただろうし、なおのこと唐人を見に敦賀津へ来た筈だと思ふのだが……

冬籠りの徒然に頭に浮かんだ妄想である。何の確証もなく答は不明だが、一つ確実なのは、紫式部が敦賀を通過した際、往路に越

えた塩津山＝深坂古道（『紫式部集』二三）、そして復路のかへる山＝木ノ芽古道（『同前』七一）は今も残っている。現地で、私たちは大作家の若き日を偲ぶことができるのだ。新緑の頃にでも訪ねてみるとしようか。

## ○令和6年度展示のご案内

令和6年度は敦賀や敦賀市立博物館を代表する文化財や歴史的トピックを順次取り上げた企画展シリーズ「つるが、発見！」敦賀の歴史を深掘・探検」を実施します



### ▼一・二階展示室

平常展示リニユーアル

三月十五日(金)～四月二十一日(日)

一・二階展示室で開催の平常展では、一・二か月の期間で一部のコーナーを入れ変えながら通史展示をしています。三月十六・十七日の北陸新幹線敦賀延伸を記念し、展示をリニユーアルします。同時に三階では「敦賀の名品展」と題し、博物館資料の中から名品を選んで展示しています。

### ▼二・三階展示室

第1期 「海湖と繋がる敦賀の鉄道

～終着駅から始まった～」

四月二十四日(水)～六月十六日(日)

北陸新幹線敦賀開業を記念して、館蔵の鉄道資料を中心に、鉄道と深くかかわってきた

敦賀の歴史を紹介します。

### ■イベント 鉄道遺跡歴史ウォーキング

四月二十九日(月)・五月六日(月)

※四月十六日より予約受付開始

### ▼二・三階展示室

第2期 「敦賀コレクション名品選(仮)」

六月十九日(水)～八月二十五日(日)

独自の美意識で収集された博物館が誇る日本画コレクションの魅力を紹介します。

※前後期で展示替えをいたします。後期は

七月二十三日(火)より

### ▼二・三階展示室

第3期 「『おくのほそ道』と敦賀」

同時開催「天狗党関係資料展」

八月二十七日(火)～十一月十四日(月)

元禄二年の『おくのほそ道』の旅で俳聖芭蕉が遊んだ敦賀の俳諧文化を紹介します。

あわせて天狗党に関わる資料を平常展の一部でご紹介します。

■イベント 天狗党遺跡歴史ウォーキング(予定)

### ▼二・三階展示室

第4期 「日本横断!運河計画」

十月十八日(金)～十一月二十四日(日)

敦賀湾から琵琶湖の間に運河を通し、日本海と太平洋を繋げる。こんな途方もない大運河計画が、実は昔から大真面目に検討されてきました。疋田の舟川は、その計画が一部実現した歴史的遺構です。新幹線が延伸し、新たな交通の歴史が刻まれる「古代からの交通の要衝・敦賀」を象徴する大運河計画について紹介いたします。

### ■イベント

歴史ウォーキング&展示記念講演会(予定)

### ▼三階展示室

第5期 「行き交う人々、交わる文化

～みなとまち敦賀の美～」

十一月二十八日(木)～一月十三日(月)

敦賀にゆかりを持つ美術品から、江戸から明治時代にかけて展開したみなとまち敦賀の文化を見ていきます。また、敦賀の人々と都の絵師、文人たちとの交流を紹介いたします。

### ▼三階展示室

第6期 「敦博刀剣資料優品展」



一月十五日(水)～二月二十四日(月)

敦賀市立博物館が所蔵する刀剣から郷土ゆかりの貴重な刀剣を中心に紹介いたします。

○令和6年度その他イベントのご案内

■講演会情報 第二十二回 吉継カフェ

【講師】奈良大学教授 外岡慎一郎氏

【会場】きらめきみなと館(予定)

申込不要／参加無料

【開催日】十二月か翌一月頃

恒例の戦国武将・大谷吉継に関連する連続歴史講座を今年度も開催します。

大谷吉継研究最前線です。皆様ふるってご参加ください。

文化振興ニュース(おまけ)

松原神社(敦賀市松原町)にあった天狗党が閉じ込められていた<sup>にしんぐら</sup>鯨蔵(市指定文化財)の、松原公民館跡地への移設が完了しています。近くにガイダンス施設ができ公開される予定です。後は令和6年度中のお披露目を待つばかりです。

事務局長の期待とつづき・・・

二〇二四年三月十六日に北陸新幹線敦賀駅開業となります。

これで長野ー敦賀間の開通となり北陸新幹線の名と体がいよいよ揃ってきたと感じますが交通網の要衝である敦賀に新幹線が連結できた事は、人や物の動きに劇的な変化をもたらし事が期待され、敦賀が国内外から注目される理由となる事は間違いありません。

この百年に一度のチャンス到来気運のなかJR敦賀駅を起点に商業施設が増えて市内の様子は大きく変わってきましたが、開業がゴールではなくここからが始まりです。益々の拡充を目指して、国内各地から優秀な講師達が招聘され、啓発セミナーが行われておりますので新規事業にチャレンジする人が増える事が今後も期待されます。こうした町の賑いにビジネスチャンスを読みとった県内外から事業参入が見込めるこの状況は、一九〇二年の東京ーヨーロッパの最短路を現実にした敦賀ーウラジオストク間の直通航路開始であったり、豊臣氏家臣であった蜂屋頼隆や大谷吉継のもと飛驒の金森長近の元家臣であった糸屋彦二郎、

近江国守山出身の高嶋屋伝右衛門、同じく高島郡出身の田中清六、そして道川三郎左衛門や越後屋兵太郎たちが敦賀の初期豪商として活躍した時代と同じように、優秀な人材や投資が敦賀にもたらされる時代の始まりを予感させます。

この原稿を書いている時点では決定ではないですが、新幹線開業を祝うため敦賀へやってくる航空自衛隊第4航空団第11飛行隊(ブルーインパルス)は被災地能登を経由する計画だそうです。

一日も早い被災地の復興の祈り、北陸新幹線の新大阪延伸、果ては日本海側を繋ぐ「北陸×青函圏」プロジェクトへ想いを馳せてブルーインパルスの演目を眺めたいと思います。



## 博物館友の会だより101号

令和6年3月31日発行

発行 敦賀市立博物館友の会  
事務局 敦賀市相生町7-8

TEL 0770-25-7033

FAX 0770-47-6131

E-MAIL museum@ton21.ne.jp

## [編集後記]

3月16日(土)の北陸新幹線敦賀延伸で、やっと実感が湧いてきた今日この頃、皆さんはもう新幹線に乗車されましたか?みなとつづが山車会館の関係者が事前の試乗会に呼ばれた機会にあわせて、博物館某職員もその尻馬に乗りまんまと乗車してきました。ごみ捨ては禁止、当然飲酒も禁止というルールなどがありますが、なんと福井駅まで十数分程度で着いてしまうという便利さです。乗車賃金はお高くなりますけどね…。